

いなむら市長の「い~なこの街 尼崎」 5月

テーマ：『ECO 未来都市あまがさき』を目指して

稲村：尼崎市長の稲村です。

月に1度、お届けしていますこのコーナー、今回は、「『ECO 未来都市あまがさき』を目指して」と題して、尼崎の環境への取組みについてお話をしていきたいと思います。

なんと今日は、尼崎商工会議所 企画・広報部長の南田 雄二さんと尼崎環境オープンカレッジ 実行委員の原田明さん、お二人のスペシャルゲストをお迎えしています。南田さん、原田さんよろしくお祈いします。

南田・原田：よろしくお祈いします。

稲村：さて、お忙しい中ゲスト出演本当にありがとうございます。

まずは、ゲストのお二人から自己紹介をお願いしたいと思います。まずは南田さんからお願いします。

南田：はい、尼崎商工会議所で、企画・広報部長を務めております南田でございます。行政や企業の連携を促すための企画・調整、会員事業所間のコミュニケーションを図る会報誌の発刊、商工会議所と会員事業所の皆さんの活動を市民に知って頂くための情報誌の発行などを行っております。

稲村：はい、ちょっと緊張がみかなという感じもしないでもない南田さん今日はよろしくお祈いします。

南田：今日はちょっと固いですね。

稲村：いやいつもね、ものすごい私に負けないおしゃべりですよ。私は勝手に仲間だと思っているんですけども、続きまして環境オープンカレッジの原田さんお祈いします。

原田：あまがさき環境オープンカレッジ実行委員の原田です。あまがさき環境オープンカレッジは今から3年前に、尼崎市内で環境に関する市民団体が集まって発足した、市民大学です。

「まちじゅうキャンパス」を合言葉に環境に関して様々な講座や現地学習会を運営実施しています。

このカレッジにはですね、一つだけ校則がありまして、参加していただいた方同志、ニックネームで呼び合うというものなんです。

私はボブという名前で呼ばれていますので、ボブと呼んで下さい。call me bob.

稲村：ありがとうございます。それではボブさん今日はよろしくお祈いします。

折角ですので、余所余所しいのも詰まりませんから、今日はやっぱりいつもどおりニックネームで行きましょうか。南田さんのニックネームは。

南田：ゆうちゃん

稲村：ゆうちゃん、そしてボブさん、私もオープンカレッジの学長をさせてもらっているんですけども、私は「イナゴン」と言うニックネームでいつも呼んでもらっていますので、今日はそんな感じでよろしくお祈いいたします。

稲村：それではリスナーの皆さんもご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、今年の3月15日に尼崎市は国から「環境モデル都市」に選定されました。

これはですね尼崎市が阪神工業地帯の中核を担う工業都市として発展していくなかで、生じた環境問題を産業界・市民・行政が一体となって乗り越えてきた、そういった歴史を踏まえてですね。今度は、低炭素社会の実現に向けて二酸化炭素などの温室効果ガスの大幅削減などへ取り組

みを行うそういったモデル都市として、国に選定されたということなんです。

この選定を受けるまでには、色々な手続きがあるんですけども、その中で国に尼崎市の取組みを伝えるためのプレゼンテーション・審査会がありまして、その時には、実は産業界を代表して商工会議所から南田さん、市民活動を代表して原田さん、そして行政を代表して私と関係職員が出席をしたという訳なんです。ですので私たちは今日が始めてじゃないんですよ。

私も市長になってから審査する側はね、何回か機会をいただいているんですけども、審査される側ってものすごく久しぶりですし、環境モデル都市に選んでもらえるかの瀬戸際ということでいや緊張しました。お二人はどうでした。

南田：プレッシャーはありましたね。

稲村：ありましたよね。ただ、いろんな都市、ライバルが沢山いまして、その中から激戦を勝ち抜いたという訳なんですけれども、尼崎市というんじゃなくて「チーム尼崎」ということでプレゼンテーションしまして、市の側も私だけじゃなくて、経済環境局長とか何人かチームで行きましたし、後、やっぱり商工会議所や市民団体から一緒にプレゼンテーションに参加したっていうのは尼崎市だけだったんですよ。

原田：あ、そうなんですか

稲村：はい、このやっぱりチームワークというか、行政だけが突っ走って勝手にやってるんでもなく、やっぱり皆が同じ方向を向いて頑張ろうとしている、これが非常に高く評価されたという風に、後の書類で書いてありました。お二人のお蔭です。これからもよろしくお願いします。

じゃあ、お二人からもちょっとその時の感想も含めてお話いただこうなかなと思いますけど、南田さんどうですか。

南田：そうですね。何と行ってもですね「チーム尼崎」のリーダーである稲村市長のですね“明るく、

原田：イナゴンね。

稲村：今日は、そうだった。

南田：イナゴンですね、失礼しました。イナゴンですね“明るく、元気な”プレゼンテーションがまあ選考委員の皆さんのハートを鷲掴みにしたと思いますね。

稲村：いやいやいやいやチームワークですよ。

南田：やっぱり、一生懸命やっているというのは人の心を動かしてですね“共感”を呼ぶもんだなとほんと実感しましたね。

稲村：それはありますよね。

南田：最後にエピソードなんですけどね、最後に退出する前に、会頭も言ってこいってことだったので、「産業界も一体となって、頑張りますのでよろしくお願いします。」と言った時にですね、ボブさんが私の肩を組んでですね「市民も一緒にやりますんで！」と言って“笑い”を選定委員の皆さんから取った時には、正直、ヤツタっていう感じがしましたね。

稲村：そうです、そうです、前半がプレゼンテーションで、それはもうねタイムオーバーしないようにとすごい緊張感で、その後の質疑応答がまたけっこうな厳しい質問がバンバン審査員から投げられてきて、私たちも一生懸命チームで打ち返していくっていう、すごい緊張感あふれる時間だったんですけど、最後にここでほっと笑いができましたよね。いや、ボブさんはどうでしたか。

原田：そうですね。選定委員の方にですね。何か質問が飛んでくるかと思ってたんですけども、市民側の代表にはこなかったんですよ。

稲村：そうですね。

原田：僕は折角きてんねんやから何とかここでアピールせなアカンなと思って、ちょっと前をみたら南田さんの肩があったんで、

南田：ゆうちゃん、ゆうちゃん

原田：ゆうちゃんでしたね。ゆうちゃんの肩があったんで、思わず抱き寄せてですね。「産業界と市民が一緒にやりまっせ」みたいな、ほなさいならみたいな感じで、

稲村：ほんとあれ良かったですね。最後の締めとしては最高でしたよね。

南田：ナイスエンディングでしたね。

原田：私がね印象に残っているのは、行きしのね新幹線の中で、3列の席を逆にして、ぐるっと回して修学旅行座りみたいな感じで、プレゼンですねチェックをするというか練習をされていて、その僕ちょうど対面に座ってですねプレゼンのチェック役みたいなことを仰せつかって

稲村：タイムキーブもしてもらってね

原田：そうしたら市長の声がよく通るんですよ。「それでは尼崎のプレゼンテーションを始めます。」みたいな感じで、よう通る声でいうから僕は気が気でなくてですね。周囲の人から何か言われるんとちゃうかなと思って「市長、もうちょっと声小さくして」みたいな話をして、僭越ながら申し上げたりして、

稲村：そうでした、そうでした、行きしの新幹線でもずっとぎりぎりまで私たち作戦会議をやってね。

原田：周りの人からみたらね、何やこの人らと、

南田：こいつらなんやねんってね。

稲村：その成果があって環境モデル都市の選定をいただいたと思います。ただこのモデル都市の選定というのも、もちろんスタートライン、これからも真の環境先進都市「ECO 未来都市・尼崎」を目指していくぞということで、実はこの「ECO 未来都市・尼崎」なんですけれども、もともこのモデル都市に手を上げる前から産業界にご提案いただいていて、共同宣言をさせてもらってたものなんですよ。

南田：はい、兼ねてよりですね、地域の経済団体である尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、尼崎工業会そして尼崎地域・産業活性化機構、それから地元金融機関であります尼崎信用金庫の代表が集まりまして、産業の活性化策等について議論を重ねておりました。各団体が連携し、経済活動を通じて、産業と環境が共生する「ECO 未来都市」を目指していこうということで合意しまして、前市長の白井さんの時代なんですけども2010年11月に、尼崎市さんと共にですね。共同宣言したという経緯があります。産業活動のあらゆる場面でですね、先進の環境・エネルギー技術を活用・導入することで、エコロジーとエコノミーですね。エコエコつながりですね。両立するビジネスモデルっていうのを創出して、ものづくり産業の活性化を図っていこうというものです。市内の中小企業と連携して改造電気自動車を作って尼崎市にプレゼントして寄贈したりして

稲村：はい、いただきました。

南田：市長に一番最初に乗ってもらいましたけども、それから宣言団体が連携してシンポジウムなんかを開催するなど、エコスタイルの啓発に努めております。市長最初におっしゃられたようにひとつの同じ目標を共有することはとても大切な事ですね、宣言したことによって、その団体いまままで仲良かったんですけども、更に連携が深まったように感じております。

稲村：本当にそう思います。まあ、よくね産業と環境って対立しがちじゃないのっていうふうに思われ

る方も多いと思うんですけども、尼崎はいち早くやっぱりこういった経済と環境を両立させる。そのみならず、もっとそれが win&win で産業の活性にもつながる環境政策、環境の行動につながる産業政策っていうふうにな、そういう良い循環を作っていこうとしています。

もちろん市民の方の運動も活発ですし、市民は消費者でもありますのでね、そういうこともまた一緒に目標を共有していきたいと思う訳なんですけれども、このオープンカレッジの方についても、今度はエコあまフェスタっていう大きなイベントも控えていますので、ちょっとこっちの方の宣伝もお願いできますか。

原田：6月8日の土曜日ですね、塚口さんさんタウン 2 階のスカイコムというところで、午前10時から午後3時、テーマが「どきどきわくわく×エコ」ということで、エコでどきどきさせたいかみたいな感じですよ。若い人にどうアピールするかが今回の課題として、尼北、小田高、園田学園などの参加の表明がありましたので楽しみにしております。

稲村：このエコあまフェスタと、あと産業界の方も中心になってもらったエコキッズメッセというのがですね。また、これも夏に毎年やってますので、こういうイベントにもできればご家族でね、どんどん参加をしていただいて、また私たちだけじゃなくてももちろん市民みんな、尼崎市全体でこの「ECO未来都市・尼崎」を是非とも推し進めていきたいと思っております。

あ、そう大事な事を忘れていました。ボブさんが実は、このFMあまがさきで番組を持っているんですよ。ちょっとその宣伝をやってください。

原田：昨年の秋にですね、この FM あまがさきさんで団塊の世代向けに新番組を開始するにあたり、55歳以上のパーソナリティを募集するということがありました。それを聞きつけた環境創造課の職員の方が「ボブさん応募したらどう。」って誘ってくれて、エコのことを広げたいということで、そのテーマで応募したところですね受かりまして、この4月から夕方の昭和通り2丁目ラジオという番組でパーソナリティをやらせていただいております。

稲村：そうなんですよ。

原田：月曜日担当なんですけども、その番組の中で「尼崎の中心でエコを叫ぶ」というコーナーがありまして、尼崎を舞台に環境活動されている方をゲストにお呼びして、お話をお聞きするという企画を展開しております。

稲村：この番組には、もうゆうちゃんは出たんですか。

原田：いやゆうちゃんはまだお呼びしておりません。

稲村：じゃあ、次のゲストはゆうちゃんかな。

南田：いやいやいやいや、とんでもないですよ。

稲村：ゆうちゃんも出てもらわないといけませんね。

原田：今日これから頼もうと思っております。

稲村：ほんと、ほんと、まあ色々な団体が力を合わせるのももちろん、まずはこうやって1人ひとりのね、繋がってやっぱり大事ですもんね。これからもこれをまたまちづくりの力にもしていきたいと思っております。本日はお忙しい中ありがとうございました。

今日は、南田さんと原田さんこと、ゆうちゃんとボブさんをゲストにお迎えして『ECO 未来都市あまがさき』を目指した取組みについてお話をさせていただきました。リスナーの皆さんも是非、一緒に取り組んでください。

それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに・・・